

自然神・社（縁）・自然村

柿崎 京一（早大）

1 報告のねらい。「村」を再考する。

2 鈴木「自然村」の理論における「村の精神」とは、

協同体成員の個人間の社会過程、個人の意志に宿る生活規範である。この生活規範は、超個人的・超時間的協同体そのものの永遠の発展のための客観的意志、つまり社会意識である。その具体的表現として制度・慣習・思想などの文化形象があげられ、文化人類学の「民族精神」、民族心理学の「全体精神」に近い概念、文化形象に支配的に存する「生活原理」が「村の精神」。

3 有賀「聚落的家連合」の理論における「生活意識」とは、

生活条件を統合し、新しい編成による適応、つまり「次の展開を決定する」固有の伝統・文化に根ざした意識である。この生活意識は地縁関係（生業や生活の関係 - 生活体験を通して共有されている生活知の累積体）から滲み出てくるものであり、「そこに民族的性格が存在」し、同族団体を発生させることになったのである。

4 「村の精神」、「生活意識」の象徴としての「社」（土地の守護神）

自然神 土は大地を主宰する神、農耕集団が共同で祭る農耕地の神
社（土）〈

人格神（先祖カミ・氏神、神話・伝説上の神、歴史上の神）

韓国の自然村における巨石（ミル）信仰・堂山木（タンサンナム）信仰・山の神

龍王神（ニンニ） - 忠清南道 -

中国の自然村における土地神・関帝廟・黒龍潭（ハイロンタン） - 山東省 -

社会：昔、社日に催した部落の住民の会合、部落の住民が生活向上のために作った組合

日本、岐阜県白川村島部落の「ソヨノカベ」（山の神）信仰

5 自然村を媒介（社縁）として創出された共同の意味世界（エートス）としての自然村

自然村の本質は「社会意識（村の精神）の自足的相互制約の組織」（鈴木）

生活意識の累積、継承、想起の装置としての社（象徴）。社会的結合。